



## 星合隆成 工学博士

崇城大学IoT・AIセンター長  
崇城大学情報学部教授  
早稲田大学招聘研究員  
元NTT研究所主幹・参与  
元ベルコミュニケーション研究所 客員研究員  
令和8年1月付で四万十市市長補佐官



SNS等の基礎理論である“P2P”理論、「ゆるやかな横のつながり」による地域イノベーション創発理論である“SCB”理論の提唱者であり、大学研究シーズの社会実装および産学官連携による地域産業創出を研究しつつ、大学内外問わず、イノベーション人財の育成に取り組んでいる。

自治体・企業・大学の連携による新産業創出や地域企業の技術高度化に関する実践的研究を行っており、これまで、総務省・経済産業省の関連プロジェクトに参画し、地域イノベーション政策や産学官連携の取り組みに携わる。技術・産業分野における社会実装型の取り組みを推進。

2005年の愛知万博においては、教授の理論をもとに全国の100万人をつなぐ壮大な実験も行われた。

現在は研究理論を地域経済へ接続する実践型研究を継続しており、現在は熊本を中心に自治体との連携による地域資源を活用した新産業創出モデルの構築に取り組んでいる。

産経新聞では、2020年4月から6月まで全8回で、イノベーション創発～新たな価値観が地域を救う～というテーマにてコラムも執筆。



「TEDx Talks にて」動画配信中

